

静岡県公立大学法人

(静岡県立大学・静岡県立大学短期大学部)

質保証と質向上に向けた実践 アウトカムの向上について



2025年12月

本学の紹介

- 1987年4月に静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学を改組統合し、併せて新学部を増設して発足。
現在開学から39年目
- 所在地: 静岡市駿河区
- 学生数: 3526名
(2025年5月1日時点)



公立大学における中期目標と大学認証評価の関係

従来

中期目標 (期間:6年)	中期計画及び年度計画を策定のうえ、年度ごとに評価委員会の評価を受ける
大学認証評価 (7年おき)	大学としての内部質保証の評価を、7年おきに認証評価機関から受ける

問題点①: 年度計画では、質保証の個別の内容を十分に掌握できない
問題点②: 本学では中期計画は「中期・年度計画推進委員会」が、内部質保証は「法人質保証委員会」が所管していて、評価項目への対応が難しかった。

地方独立行政法人法の改正

本学では第4期中期目標期間(2025～2030年度)から年度計画が廃止に

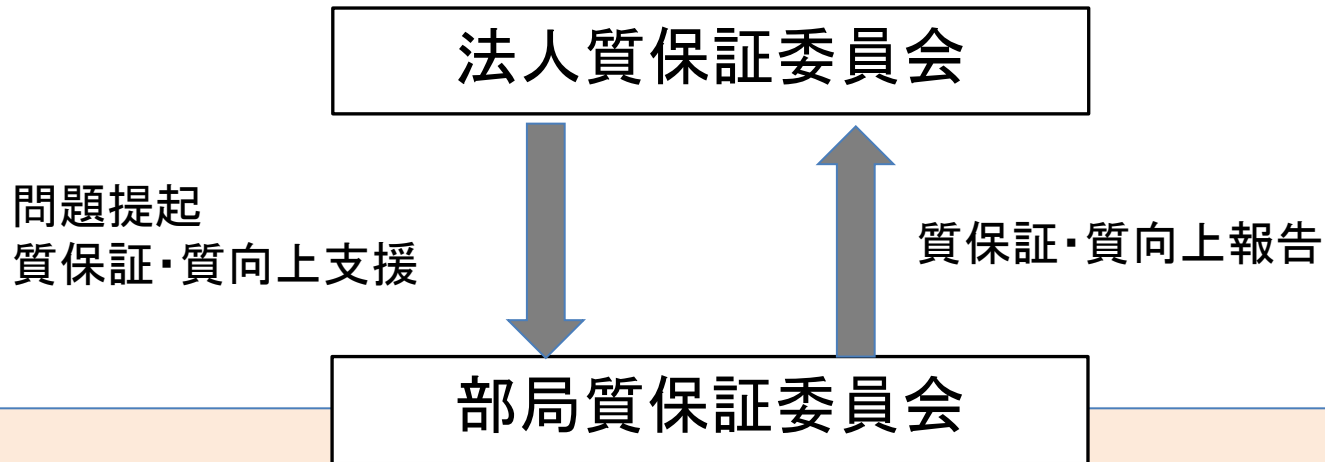
現在

2025年度から、法人質保証委員会の所掌事項を見直し

- ・大学の内部質保証
- ・自己点検・評価(中期計画、外部評価を含む)
- ・大学認証評価への対応
- ・静岡県公立大学法人評価委員会による評価

法人質保証委員会に
一本化

法人質保証委員会と部局質保証委員会の関係



【学部】

- ・薬学部
- ・食品栄養科学部
- ・国際関係学部
- ・経営情報学部
- ・看護学部

【大学院】

- ・薬学研究院
- ・食品栄養環境科学研究院
- ・国際関係学研究科
- ・経営情報イノベーション研究科
- ・看護学研究科
- ・短期大学部
- ・事務局・附属図書館

質向上に向けた取組

- **教員活動評価(教育、研究、社会貢献、大学運営)を毎年度実施**
活動実績が優れた教員を学長が表彰
教員活動実績報告書は、自らの活動状況を振り返る機会となる
- **授業参観評価で、他教員からの授業評価(ピアレビュー)を実施**
結果のフィードバックを受ける機会を設定
- **学生による授業評価の結果を学生に開示**
- **同窓会組織と教授会との意見交換会を定期的に実施**
- **卒業時のディプロマポリシーへの達成度を学生が自己評価**
- **ふじのくに地域・大学コンソーシアムでの地域大学との単位互換授業、
共同でのFD・SD研修会実施**

3ポリシーに基づく教育改善について

- 3ポリシーの仕上げは、ディプロマポリシーと考える。

ディプロマ・ポリシーを反映したアウトカムの一例

日経キャリアマガジン「卒業生の活躍度が分かる新・就職力ランキング」

企業の人事担当者へのアンケートで、「新しく入社した卒業生の資質・姿勢」及び「大学の取組に対する評価」を数値化



ディプロマポリシーが、別の高等教育機関のアドミッションポリシーに直結している可能性

(一例)学部卒業生が海外の大学院に挑戦する場合、推薦書を求められる。

評価項目に注目 個別の例は示さないが、次のような傾向があるかもしれない。

(1) 推薦者の立場から、被推薦者の学生を段階的に評価

例 上位2%, 上位 10%, 上位25%, 上位50%, 下位50%, 評価不能

(2) 評価項目に学業成績も一部含まれる場合もあるが、学業成績だけではない。

学業成績の例: 授業における評価 (GPA等)、学問分野に関する知識、
実験技術 等

それ以外、個人の能力および潜在能力について、多くの項目で判定が求められる。

例: 独立して思考する力、信頼性と責任感、対人スキル、困難な状況からの復元力、
倫理および誠実さ、他者の幸福への配慮 等

- 学生に「県大で学んで良かった」と思われることが本学の主要な目標
 - そのために、優秀な教員を集める
 - 教育の質向上のためには、研究能力は必須

教員の研究能力についてのアウトカムの例 その1:

科学研究費助成金獲得状況

令和7年度データ

- ① 配分額: 4.3億円 (公立大学で第9位)
件 数: 149件 (公立大学で第11位)

※他の公立大学への配分額

1位: 21.3億円(大阪公立)、2位: 11.4億円(東京都立)、3位: 9.2億円(名古屋市立)

- ② 新規課題の採択率: 38.7% (公立大学で第1位、全体で26位)
- ③ 40歳未満が研究代表者である割合: 32.2% (公立大学で第1位)

教員の研究能力についてのアウトカムの例 その2:

論文引用度に基づく領域別トップ2%研究者

- 米国スタンフォード大とオランダの大手学術出版社のエルゼビア社による調査
- 2025年11月に本学に在籍している研究者で、2024年の引用実績をもとに、分野内でトップ2%に入る研究者を発表

→ 本学に6名在籍



公立大学協会地区協議会で出た意見

- 研究の評価は、論文発表や引用度などで数値化が可能だが、教育の質の評価方法や評価軸が不明。
- 評価結果として、適合／不適合だけではなく、序列をつける方向性は、安易に行なうべきではない。
- また、分野別評価を認証評価に加えることは、評価の作業量が莫大となることも予想され、現実的ではない。
- 一部の分野ではあるが、分野別評価も大学認証評価とは別に行なっている現状がある。ただ、評価機関からの提言が、大学の置かれている状況を十分理解しているとは言えないこともある点に要注意。

既に認定されている分野別評価

●食品栄養科学部 食品生命科学科

JABBE 一般社団法人日本技術者教育認定機構による
技術師補育成プログラム

Japan Accreditation Board for Engineering Education
認定委員会 2025-2030年度 認定

●薬学部 薬学科

一般社団法人 薬学教育評価機構

第2期 2024年度 適合 (2025年度—2031年度)

「最低レベルの教育が保証されていることを担保する(社会的責任)」が基本だが、「大学独自の特色を活かした自己点検や評価を考慮」が2期から追加された。

県大で学んでよかったと思える大学をめざします

